

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100487		
法人名	株式会社 育成		
事業所名	グループホーム育成会 長生の望・灯・楽 (灯ユニット)		
所在地	釧路市大楽毛南4丁目6番8号		
自己評価作成日	平成24年2月20日	評価結果市町村受理日	平成24年4月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0174100487&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成24年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年は震災もあり、入居者にとって安心できる生活を提供する立場として、どう対策し対応していくかが問われました。お陰様で地域町内会様の多大なるご協力もあり、より地域と密着したホーム運営となっております。今後も地域の頼れるホーム(事業所)を目指して取り組んで参ります。また、理念にも掲げている通り、利用者様はもちろんのこと、ご家族様の来訪時にも、ほっと安らげる雰囲気と絆を感じられる環境作りに努めて参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は海沿いに沿った静かな場所に位置している。各ユニットは明るく清潔で不快な臭いや音も無く利用者はゆったりと寛いでいる。温度・湿度調節など健康管理に気をつけ、冬期には「かぜ」で通院することもなかった。町内会行事に積極的に参加し、8月の周年祭など事業所行事にも地域から多数の参加がある。運営推進会議では防災に積極的に取り組み、津波に備えて電気配電盤を3階に移す提案があり、現在検討中である。町内会は事業所のために「災害委員会」を設置している。地震の際に地域高齢者の一時受け入れ場所に事業所を利用する話や利用者や避難者用に災害用備蓄庫を事業所に作る計画を町内会と話し合い、地域と一体となり災害対策に取り組んでいる。職員は、利用者同士の関係や家族との絆を大事にして、状況を見極めながら利用者の尊厳を守り、日々穏やかに生活できる様に支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームが掲げる理念を毎朝の申し送りで唱和し、確認するとともに、職員一人一人が理念を共有し実践している。	基本理念・ケア理念を基に運営理念とし管理者と職員は理念を共有し、日々の業務の中で実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや行事には利用者とともに参加しています。また、ホームで主催している行事などに、近隣、町内会の方を招待し、顔なじみの関係になっております。	ミニ運動会と盆踊りを地域と共同で開催し、また娯楽会などの町内会行事にも職員と一緒に参加した。事業所行事にも多数の住民が訪れ、利用者と顔なじみの関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で定期的に意見交換を行っており、認知症の理解や支援に繋げている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見交換は、サービス向上に活かされております。	地域包括支援センター・家族会・町内会長・民生委員などが参加し2ヶ月に1度開催。利用者状況、評価の取り組みの報告をし、また災害時に地域の高齢者の受け入れや電気配電盤を津波に備えて屋上に設置するなどの提案がなされた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では、包括支援センター委員と情報交換を行っており、市町村担当者とは、色々な場面において、こちらから出向き、助言等を頂いております。	包括支援センターや市役所に出向き担当者と話し合いながら事業所の実情を報告し、サービス向上につなげながら協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム全体で、身体拘束、行動制限を行わないよう取り組んでおり、スタッフが日常のケアの中で実践している。	運営者及び管理者と職員は身体拘束の研修を重ね、確認し合いながら拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は「言い訳ケア」をすることなく、日々のケアに取り組んでおります。利用者への尊厳と主体性を尊重し、虐待を正当化することなく努めております。		

グループホーム育成会（灯ユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一人一人の状態や行動の特徴を把握し、日常生活の自立支援に活かしている。成年後見制度については、職員の理解は不足している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学、面談、検討会議を経て、契約締結となりますが、契約内容については十分に説明を行い、理解、納得した上で署名捺印を頂いております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱、アンケート用紙を置いています。また、ご家族の来訪時や電話、手紙などで利用者の近況を報告し、ご家族の要望等も頂きながら、サービスの向上に努めております。	家族とのコミュニケーションを大事にし、意見を真摯に受け止め、家族に報告・相談を行いながら運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	直接、施設長との面談もあるが、定期に開催している幹部会議の場で、スタッフの意見や提案を取り上げ、運営に反映しています。	個人面談やフロア会議・全体会議・管理者会議などでは、職員は自由に意見を述べられ、ケアに関する提案などは話し合い、直ぐに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績に応じて、人事考課をし、キャリアパスを設け、向上を持って働けるよう努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に参加して、研修内容をスタッフ会議や学習会で他のスタッフに情報の共有を図っています。実際に支援の中で実践し、確認、理解し合い、職員のスキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会の研修会や交流会に参加し、事例検討をして、サービスの向上に取り組んでおります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が関わる、支援事業所や医療機関より、情報を提供していただき、ご本人の不安な事、求めている事を、安心して相談できる体制や雰囲気作りに努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者が関わる、支援事業所や医療機関より、情報を提供していただき、ご家族の不安な事、求めている事を、安心して相談できる体制や雰囲気作りに努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用相談や面談の際、必要とされる支援の見極めを行い、求められている支援について、職員全員で話し合い、初期の介護支援計画を立てます。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、個々の能力を活かした役割分担を行っており、ちょっとした工夫を利用者の方から教えて頂く事があります。互いに学び支え合う関係を築いております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な連絡や面会、月に一回発行の通信物により、ご本人の様子を伝えると同時に、ご本人の要望を御家族へ伝えています。ホームの行事等がある際には、ご家族へ御案内し、共に過ごす時間を作れるよう働きかけております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や、友人の電話でのやり取りや、来訪を快く受けております。ホームでのご様子をお伝えするとともに、お互いの情報交換を行いながら理解を深めてより良い関係作りを築いていただく。訪れたい場所があるならば、ご家族に連絡や、ホームでも対応できるような体制をとっています。	馴染みの美容師が事業所に出張してくる。親戚や友人の訪問や電話の取次などを行い、家族から情報を得ながら支援を行なっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が互いに助け合い、優しい言葉をかけて、いたわり合って生活を共にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後に必要とされる対応を行い、気軽に相談できる体制と雰囲気作りを心がけております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いを職員間で共有し支援に努めている。困難な場合は、本人の言動を感じ取る努力を行い、検討しております。	日常生活の会話の中で本人の思いや意向を把握し、希望に添えるように努めている。困難なときは家族の協力を得ながら本人本意に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ライフヒストリーやセンター方式の活用。ご家族より情報を頂き、サービス利用の経過の把握にも努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の残存能力を把握し、体調変化や表情等を観察して、その人なりの暮らしができるよう努めております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族、ご本人の思いを聞き、職員全員で話し合いながら、利用者本位の介護計画となるよう作成しております。	本人、家族の意向を聞き、月1回のカンファレンスで全職員で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。身体状況に変化があれば、そのつど見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中で、体調変化、言動等を介護記録に記録し、職員間で情報共有しながら介護計画の見直しに活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的に御家族と連絡を取り、外出や病院受診、ご本人の意向によっては買物等、ドライブ、見学を行い支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事に参加しており、地域住民との関わりを大切にしております。災害時や徘徊の対応など理解と協力をお願いしております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診では、ご家族との連携を図り、病院受診、緊急受診の対応を行っております。ご家族同行の時は、生活状況報告書を作成し、適切な医療を受けられるよう支援に努めております。	定期受診は原則家族対応となっているが、家族の要望により職員も対応している。家族対応には生活状況報告書を作成し適切な医療を受診できるように支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪看の際には、日常生活の状況及び治療経過の報告を行い、相談や助言を頂き、日常生活上の健康管理支援に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、介護添書を作成し医療機関にお渡しします。ご家族との連絡も常に行い、定期的な訪問も心がけます。現在の状況把握に努め、退院時の受入体制の整備を行い、スタッフ間で情報共有を行う。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医や訪問看護師の連携のもと、ご家族との協力を得ながら「できる事」「できない事」を見極め、チームとして優しく実践していく体制作りを目指す。	事業所の方針を契約時に利用者・家族に説明して同意を得ている。	「重度化・終末期対応指針」を医師や看護師、職員の参加と関係構築のもとで作製し、本人・家族に丁寧に説明して納得してもらい、早い段階から医療機関と連携しながら支援に取り組むように期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の緊急マニュアルを作成し、常に職員の早期対応出来るよう研修会議の際に確認している。2009年より、AEDを設置、使用方法も講習し分かりやすい使用方法のマニュアルも常備しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2年前より、町内会にホームに対する災害委員会を設置していただき、避難訓練の際には参加していただいております。	年2回、町内会が参加して避難訓練を実施する。津波対策で事業所3階屋上に電気設備を取り付け直し、食糧・飲料水などの備蓄をする予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の人格を尊重し、自尊心を傷つけないように真気で接するように努めています。また、個人情報については、事務所内の書庫にて保管、管理しております。	利用者の人格を尊重し言葉掛けに注意をしてトイレ誘導時には耳元で話すなどの配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	安心できる環境作りをして、日々の会話の中で、何を思い何を願い何を求めているかを察する事を心がけています。個々に合わせて対応、説明していきながら、自己決定し納得して頂く。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家族のような雰囲気大切に、ご本人のADLに添った思いや希望を優先して、「出来た」、「楽しかった」と喜びを共感し合える支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容に関しては月に一度、専門の方に訪問して頂いております。ご本人の希望がある場合は、馴染みの美容室へ行っています。整容の乱れなどご本人の自尊心を傷つけないように、さりげない声掛けを心がけています。		

グループホーム育成会（灯ユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	直接的な食事の準備を行うことは困難ですが、食器の下膳、食器拭き、おしぼり畳みなど手伝って下さり、ご本人なりに出来る事を積極的に実施しております。	事業所菜園で利用者と職員と一緒に育てた季節の野菜が食卓に上がる。食事の準備や後片付けも職員と一緒にこなしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、水分、食事摂取量のチェックを実施。塩分や水分制限の方もいる為、全体的に薄味とし、栄養バランスが保てるよう支援しております。必要に応じて介助を行い、脱水を起こさぬよう、小分けに回数を増やす等、必要な水分量が摂れるよう支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施しており、ご自身で出来る方はご自身で、介助が必要な方には義歯、口腔洗浄等の介助を行っております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便表にて記録。プライバシーの確保に配慮し、トイレ内の環境も整えている。自力で行う事を大切にし、排泄習慣をつけるよう支援しています。	排泄記録で個々の排泄を把握し誘導しながら自立支援をしている。オムツから日中布パンで夜間トレパンとなり、自力で行えるようになった人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々、排泄チェックの実施、便秘の方には必要に応じた飲食物を提供し、献立や調理の工夫に努めております。春先から秋頃まで、利用者の体調に合わせて外気浴等の実施、冬期間では、室内でのゲーム等、参加して頂き身体を動かす働きかけに取り組んでおります。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々に気持ち良く入浴して頂くため、本人の入浴の意向や体調を確認し支援しております。入浴を苦手とし拒否される方に対し、言葉を選びながら促しております。足にむくみがある方には、状況に応じて足浴を実施しています。	月曜日から土曜日まで2人体制で支援している。嫌がる利用者も無理強いをしない。希望により足浴やシャワー浴も選べる。入浴剤を利用して楽しい入浴になるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣に応じながら、その人なりに安心して気持ちよく休憩、睡眠ができるよう、定期的な寝具交換等、個々に合わせ配慮しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬ケースがあり、日々の服薬に関しては、手渡しにて確認している。特に服薬の変更があった場合は、職員間での周知を徹底しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る事の役割を通して、ご本人の達成感を得られるものを提供し、入居者同士の協力態勢で喜びを分かち合え、張り合いの持てる生活が維持できるよう支援しております。		

グループホーム育成会（灯ユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的にドライブ等に出かけており、本人希望があれば買物などにも出かけております。	散歩や菜園、買い物などの希望者は職員と一緒に出かけている。今年は紅葉見物に阿寒までドライブに出かけた。またラーメンを食べに行くなどの支援を行なっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば小額を本人にお渡しし、買物の際には、自らお金の管理をして頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望される時や、定期的に御家族と連絡が取れるよう努めております。また、手紙の代筆なども頼まれます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間である、リビングには季節の飾り物などを置くようにして、季節感を取り入れながら過ごしていただけるよう工夫しております。	居間は南側や西側から陽が入り明るい。壁には雛人形の貼り絵など季節を感じさせる利用者の作品や行事写真がはられている。入居者がゆったりと心地よく過ごせるように工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間である、リビングにはソファーが二箇所あり、それぞれお好きな場所で過ごして頂いております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたもの、馴染みのものをお持ち頂けるようお話ししております。心地よく生活していただけるよう配置等は工夫しております。	居室にはクローゼットと洗面所が設置されている。冷蔵庫や仏壇、テレビやテーブルなど使い慣れたものを持ってきている。壁には利用者の作品、家族の写真を飾り、居心地よく暮らせるように支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「出来る事」、「出来ない事」など、把握して見守り。声掛けにて自立した生活を過ごせるよう工夫しております。		